

平成25年度県立勝田工業高等学校自己評価表

目指す 学校像	人間性豊かで、基礎的・基本的な知識と技術・技能を身に付け、新しい時代に主体的に対応できる創造的な能力を備えた、たくましい工業人を育成する。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
<p>&lt;成果&gt; 平成24年度総合工学科として3回目の卒業生を出した。地域の企業等にも総合工学科が認識され66%の卒業生が就職(内定率100%)し、32%の卒業生が進学し、そのうち1名が国立大学に合格した。また単位制の教育課程が定着し、魅力ある授業作りが進んだ。生徒全員にシラバスを持たせ、自分の進路の希望に沿った科目の選択を行なっている。「ひたちなか地域ものづくり人材育成委員会」を組織し、地元企業や本校OBによる協力体制も確立してきた。部活動や資格取得も充実しつつあり、各種大会に上位進出する部や上級資格に挑戦し合格している。また、公式試合の応援においても、生徒全員が積極的に参加するなど活発に活動している。</p> <p>&lt;課題&gt; 平成20年度から実施された単位制のカリキュラムを更に進化させ、生徒の多様化に対応した教育課程を確立していく必要がある。今後も個に応じた学習指導や生徒指導、進路指導の充実を図り、中退者、退学者をできるだけ減らす努力を継続してゆく必要がある。</p>		キャリア教育の推進	①地元企業等との連携事業や企業体験学習を拡大・充実させ、確かな学力(生きる力)を身に付けさせる。 ②大学等との連携事業や早い時期からの大学の出前授業や進学補講等、キャリア教育の充実を図り、学ぶ目標を明確にして学力・技術・技能の向上を目指す。 ③卒業時における就職希望者の合格内定率100%達成と進学指導の充実を図り、国公立大学合格を目指す。		
		個性を伸ばす教育の実現	④単位制総合工学科として適切な教育課程の研究と実践に努め、学校全体として授業を大切に、基礎・基本の定着に努めながら、専門性の深化を目指す。 ⑤基礎資格の合格率アップを目指すとともに、電気工事士や普通旋盤3級等の、系を意識した高度な資格取得への挑戦者を増加させるとともに、ジュニアマイスター取得10名を目指す。 ⑥英語教育を主としながら国際理解教育を幅広く推進・展開し、国際化社会に対応できる人材の育成を図る。		
		豊かな心の育成と安全教育の推進	⑦基本的な生活習慣を確立させ、規範意識の醸成と問題行動の未然防止を図る。 ⑧施設設備の点検と安全教育を充実させ、学校事故撲滅を目指す。 ⑨ホームルーム活動の活性化と、学校教育全体を通じた道徳教育の推進及びボランティア活動の充実を図る。		
		部活動・特別活動の活性化	⑩部活動への積極的参加を奨励するとともに、生徒の自主的活動の活発化と学校行事への積極的参加を促す。		
		広報活動の推進	⑪開かれた学校づくりを目指し、中学校への出前授業や公開授業を実施するとともに、地域や保護者・中学校等へ情報を発信し、本校の特長をアピールする。		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教	基礎学力の向上を図る。	社会人として必要な国語常識を身につけさせるために、教科書だけでなくテキストを積極的に活用する。また、各学年で課外や補講などを実施し、丁寧な指導支援を行う。 ①②			
		授業でのルールをしっかりと身につけさせるとともにノート等を定期的に点検し、授業に対するしっかりとした取り組みを習慣づける。 ⑦			
	授業の改善をめざすとともに、その研鑽に努める。	担当者全員が授業を公開し指導方法や内容について研究協議を行い、授業の充実と改善に取り組むとともに、各種研修会等に参加し、自己研鑽に努める。 ③⑩			
科	基礎学力の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させ、基礎基本の学力の習得を図る。 ⑥			
		学習ノートを定期的に確認する。 ②			
		学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。 ②			
	指導方法の工夫と研究を行う。	学習意欲を高める指導を工夫する。 ②			
		分かる授業のための指導を工夫する。 ②			
		教材や資料を積極的に活用する。 ②			
IT機器を必要に応じて積極的に活用する。 ②					



教	英語	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけさせ、基礎的な能力を身につけさせる。	毎時の授業を通して円滑なコミュニケーションのとれる生徒を育てる。	③		
			基礎的な文法力と語彙力を身につけさせる。	③		
			リスニング検定などを有効に活用し、実践的な英語力を身につけさせる。	⑤		
		異文化理解を深める。	ALTを活用したり、英語による授業を展開することにより、英語に多く触れさせる。	⑥		
家庭	自分の生き方に関わる内容を学習することで、各生徒が、常に「今」より充実向上した生活が図れるような能力と実践力を育む。	生涯発達の視点で、家族や家庭生活のあり方を理解させ、家庭を築いていくことの重要性を認識させる。	④			
		家族の生活が健康で安全に営むことが出来るように、衣・食・住・環境に必要な知識と技術を習得させる。	④			
		ホームプロジェクトや学校家庭クラブの意義を理解させ、実施方法を学ぶことで、自ら生活の改善向上を目指すことが出来るような実践力を身に付けさせる。	④			
科	総合工学	教科指導の充実および基礎学力の向上と基礎技能技術の習得。	各教科の指導内容について長期的な計画を立て、わかりやすい授業・実習に心がけ、専門教科としての基礎的重要項目を理解させる。	①④ ⑤		
		実習における技術・技能の習得に努める。大学等との連携事業等を実施しキャリア教育の充実を図る。	①②			
	安全教育の徹底。	作業服の着用・作業終了後の清掃・安全教育の徹底に努める。	⑦⑧			
		施設設備の整理、安全点検に努め、カリキュラムに対応した設備の充実を図る。	④⑧			
	各種資格取得の奨励。	各種資格取得指導について中長期的な計画を立て、丁寧な指導を実施し、合格率の向上を図る。	⑤			
道徳	自他の生命や人権を尊重する精神と、公共のマナーについて考えさせる。	基本的な生活習慣の確立と集団としての自覚をもち、善悪の判断ができる生徒の育成をめざす。	⑦			
	何事にも誠意をもって取り組み、やり遂げることの重要性を意識させる。	本校の校訓である「正しい判断・強い意志・清い生き方」に自覚と誇りをもち、将来地域社会に対して積極的に奉仕できる人間の育成をめざす。	⑨			
教務	単位制教育課程の円滑な実施。	各校務分掌、科、学年、教育課程検討委員会と連携を図り、授業時間の確保、教育課程の問題点の把握等を行い、教育課程の円滑な実施を図る。	④			
	学校運営支援システムの運用と情報管理部との連携協力。	情報管理部との連携協力体制を強化し、表帳簿等の整備、見直しを完成させる。また、支援システムの運用で出欠状況の管理で基本的生活習慣の確立を目指す。	⑦			
	学校広報活動の充実。	広報委員会、進路指導部、特活指導部と連携し、中学生対象の学校説明会、体験学習、中学校訪問を計画的かつ積極的に開催し、学校だよりの定期的な発行を行う。また、学校パンフレットの充実を図る。	⑪			
情報管理	単位制導入に向けた各種管理システム運用の推進。	単位制の導入に伴い導入した学校支援システムの円滑・効率的な運用を図る。	④			
	個人情報取扱規程の整備。	校内個人情報の取り扱いについて、持ち出し禁止区分を明確にする。	⑧			
	インターネットを活用した広報活動の推進。	本校Webページの更新を行い開かれた学校づくりを目指し、本校の特徴をアピールする。	⑪			

庶務	PTA総会等各種行事の連絡を、PTA会員やPTA役員に対し確実に言い、連携を密にする。	できるだけ早い時期に、PTA総会等各種行事の連絡を確実にPTA会員やPTA役員に対し言い、各種行事等への参加率を高める。	⑪		
		PTAの広報紙を通して、学校の教育活動やPTA活動を昨年よりもさらに工夫してPRしていきたい。	⑪		
学習指導	基礎学力の向上。	基礎学力不足の生徒に対し補習等を実施し、学力の底上げをはかる。	②		
	選択制を生かした学習意欲向上。	保護者との連携を密にし、生徒に卒業後の進路を考えさせ、その進路につながる選択科目を自ら選ばせることで、学習に対しての意欲を高める。	③		
	資格取得の推進。	関係部署と緊密な連携をとり、顕彰制度の利用により資格取得への意欲を高める。	⑤		
特別活動	生徒会の自主的な活動を促進させる。	生徒会が中心となり各種行事を行い、自主的・積極的に企画運営できるように努める。また、3年に一度行われる文化祭の計画的・効率的な行事の遂行につとめる。	⑧⑨		
	ホームルーム活動を活性化させる。	年間計画に基づき各ホームルームの活性化を図るとともに一層具体的な活動をするように努力する。また各分掌からのLHRに反映し効率的なLHRを展開をする。	⑧		
	部活動への積極的参加を促す。	各部活動資料を活用し、実演などを取り入れたPRを行う。また、部活動参加率が全生徒の70%以上になることをめざし活発な部活動およびレベルアップを目指す。	⑨		
生徒指導	基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	基本的な授業態度の育成を図り、学習習慣の確立を図り、遅刻減少を図る。(遅刻カードの利用)	⑦		
		登校指導・職員立哨・巡視(朝・昼休み)を1日2名で通年実施する。また、定期考査中の校外巡視を実施する。	⑦		
		HRにおける交通安全教育、交通講話(外部講師)・バイク指導、自転車点検等の実施により交通マナーやルールを守る心を育て、命の大切さを呼びかける。	⑦⑨		
		薬物乱用防止教室を前期に実施する。	⑦		
	工業人として清潔な頭髪服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	全職員で服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	⑦		
	学校教育全体を通じた道徳教育を推進する。	心の教育を進め、他人を思いやる豊かな心の醸成に努める。	⑨		
	各種行事を通じた道徳教育を適切に推進する。	⑨			

進路指導	望ましい職業観・勤労観を育成する。	学年と連携し1年次より計画的な進路指導を行い、自己の能力・適性を生かし望ましい職業観・勤労観を育成する。	①②		
		インターンシップ（就業体験）の充実を図る。	①②		
	生徒1人ひとりの進路希望に応じた進路指導の充実を図る。	企業への求人要請を進めるとともにそれぞれの企業が求める人材の的確な把握に努める。	②		
		進学希望者が学部学科を適切に選択できるよう大学・専門学校との情報交換を進める。	②		
		保護者会や三者面談で進路に関する情報を積極的に提供する。	②		
地域との連携を深め、地域が求める人材育成を図る。	ひたちなか商工会議所やひたちなかテクノセンター等との連携を図り、企業が求める人材を育成するとともに、就職時のミスマッチの解消や早期離職の防止に努める。	①			
保健指導	危険防止と環境整備のために清掃活動や校内安全点検を継続実施する。	環境整備委員会を中心に全学年一斉清掃に取り組む。また安全点検表を利用して、月1回清掃分担ごとに点検を行い、改善すべき場所がある場合には迅速に対応する。	⑧		
	生命に関する教育の充実。	1年生を対象に、性教育・AED講習等、専門の講師を迎えて実施する。	⑧		
	心身ともに健康であるための保健情報広報の充実。	衛生や健康に関して生徒に知らせたい情報をわかりやすく伝えるために、「保健だより」を発行するなどを通して広報に努める。	⑧		
図書	情報提供サービスの向上と充実を図る。	レファレンスサービス、リクエスト予約サービスの充実に努める。	④⑤		
		生徒の知的好奇心と興味を抱かせる書籍の選定と購入に努める。	④⑤		
	図書委員会活動と行事の充実を図る。	図書委員会活動を通じて図書館とクラスのパイプ役としての意識を高める。	⑨		
		読み聞かせ体験を通じた幼稚園との交流により社会性を学ぶ。	⑪		
		読書会や研修会等の行事の充実に努める。	⑩		
	施設の有効利用と環境整備の充実を図る。	自学自習の場としての図書館の利用を促進する。	①② ③		
利用簿等の活用により、授業・LHR等で視聴覚室の利用促進を図る。		④⑨			
1年次	協調性や他人を思いやる豊かな心を育てる。	積極的に学校行事や学級活動に参加させ、協調性や思いやりを身に付けさせ、責任ある行動がとれるようにする。	⑧⑨		
	基礎的基本的な知識・技術技能を身に付けさせる。	真摯な態度で授業を受けさせ、提出物の期限を守らせる。資格検定試験についても、意欲的に取り組ませる。	③④		
	基本的生活習慣の確立と健全な高校生活を送らせる。	自主的に挨拶ができるようにする。身近なルールやマナーを守らせ、安全で安心な高校生活を送らせる。	⑥⑦		

2年次	健康管理に心がけ、何ごとにも全力で取り組むことのできる意欲と体力を育成する。	規則正しい生活ができるように高校生としての自覚を持たせ、規範意識の向上に努める。また、社会的信頼の大切さを知らせる。	⑦		
		保護者と連携を取りながら、高校生活の安全を最優先させる。	⑧		
	将来を見通し、高校生活の中で得られる知識・技術・技能の習得に努めるとともに、豊かな社会性を身につけさせる。	授業に真剣に取り組む基礎学力を身に付けさせ、知識・技術・技能の習得に努めさせる。	④⑤		
		部活や学校行事への積極的な参加を呼びかけ、学校やクラスへの帰属意識を持たせる。	⑨⑩		
		インターンシップを通して職業意識を持たせるとともに将来に向けての準備を始めさせる。	①③		
3学次	1人1人の適性を踏まえた上で、具体的な進路目標を現実のものとしていく。	進路指導部と連携し、社会の現状を把握するとともに、昨年度の適性検査をもとに、自分自身の適性を冷静に判断させ、生徒の能力・適正に応じた進路指導を押し進める。	①②		
		保護者と密なる連携を取りながら、学校生活の安全を最優先させ、きめ細かい助言をしていく。	⑥⑩		
		授業に真剣に取り組むことにより、知識・技術・技能のさらなる習得に努めさせる。また、課題テストを通じて基礎力の充実を図る。	③④		
	ひとりの人間としての社会常識を身に付けさせることはもちろんのこと、他人を思いやる心を育てる。また必要に応じて我慢強さと忍耐力を発揮できるようたくましさを育成する。	保護者との連携を取りながら、基本的な生活習慣の完成をめざす。	⑥⑩		
校則や公衆道徳を尊重し、進んで守ることにより、社会規範意識の向上を図る。		⑥⑦			
挨拶を励行し、他人への思いやりを忘れない心をさらに育てる。		⑧			
学校運営	学校評議員制度を活用する。	学校評議員の意見を参考にして学校運営の活性化を図る。	⑩		
	情報教育と国際理解教育の推進を図る。	授業や各種行事を通じて情報教育と国際理解教育を積極的に推進する。	⑤		
	地域の中学校との連携を図る。	地域の中学校との交流事業や広報活動を通じて中学校との連携を図る。	⑩		
	地元企業との連携を推進する。	ひたちなか市や商工会議所等の協力を得てインターンシップや地元企業との交流事業を行い、地域との連携を深めて職業教育・進路指導等の充実を図る。	①②		

※評価基準：A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない